

ピーマンの地産地消

40班 河野唯路 中竹海翔 稲口太陽 橋本玲緒 椋田悠聖（普通科）



📌 ピーマンの廃棄量をゼロにする

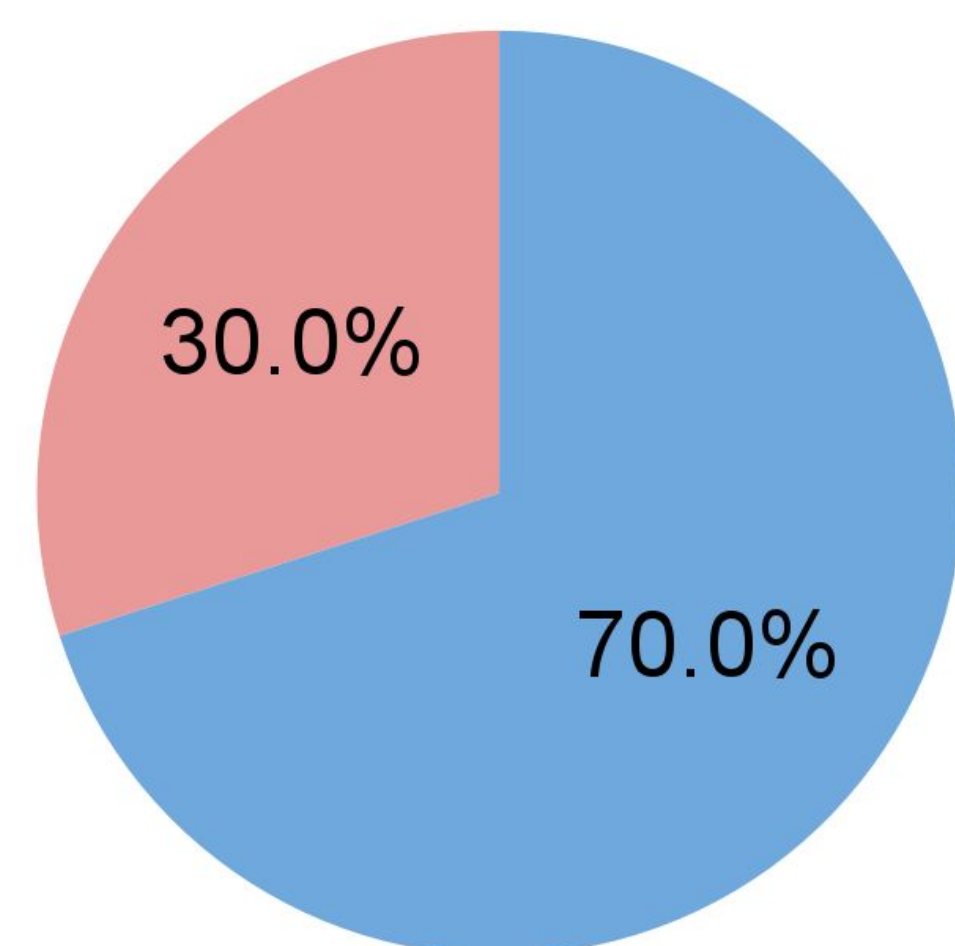
生産量が国内1位の宮崎県は、生産量に比べて県内での消費量が少ないという現状を確かめ、県内で消費しているピーマンの廃棄量を減らすことを目的とし、ピーマンの種やへたへの信憑性を高めることで捨てなくても美味しく食べられることを広めれば、廃棄率をゼロにしていくことができた地産地消にもつながる

目的

事前に行ったアンケートによりピーマンのへたや種を食べれることを知っていて食べない人が多いことがわかりへたや種の廃棄量をへらしたいとおもった。

ピーマンのへた・種について

- 知っていた
- 知らなかった



結果 1

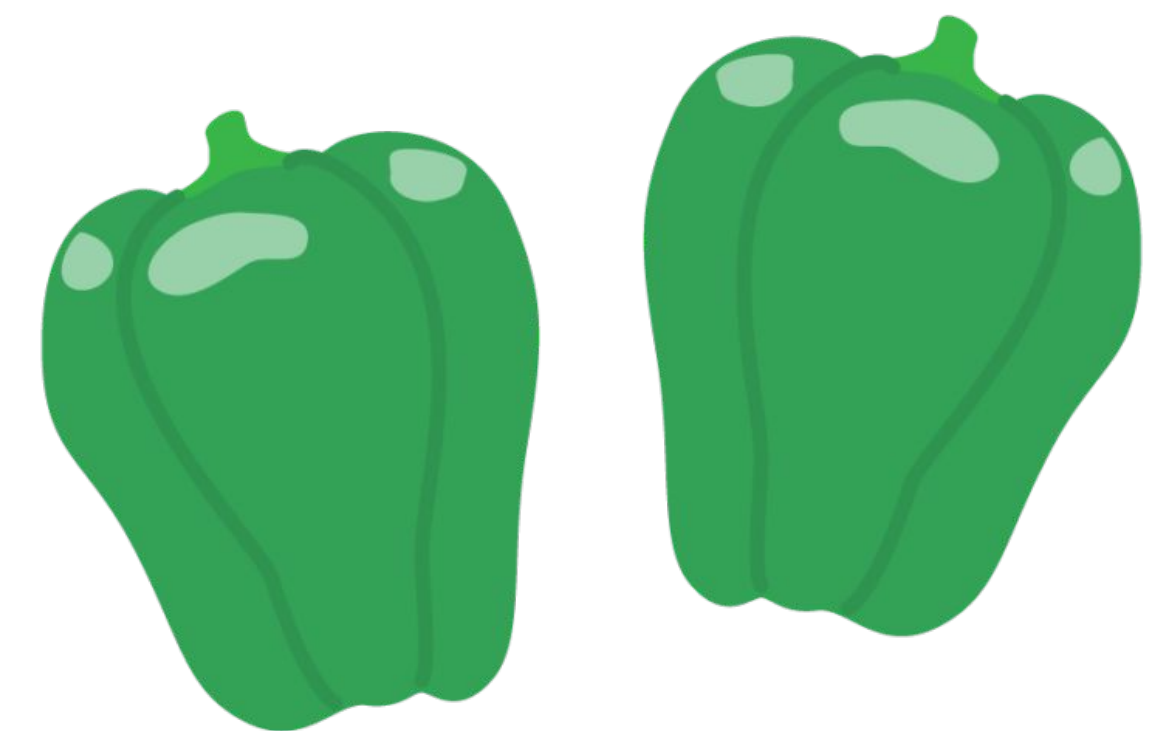
実際に行ったアンケート結果からへたや種を食べない人たちの理由として、虫や農薬が付いていそうというものでした。農家の人に聞いたところ、農薬は指定されたものしか使っておらず水洗いすれば完全に落ちるものでした。虫については防虫ネットを使って、殺虫剤も指定されたものを使用しているとのこと。農家の方の話によると農家の6割ぐらいは農業協会に出荷していて、そこから県内や県外に出荷していて県内より県外のほうが出荷量が多いことがわかった。出荷に至らなかったピーマンはひとにあげるか、それでもだめなものは捨てる

考察

ピーマンの種やへたには虫はついておらず農薬も安全なものを使っており水洗いで安全に食べることができ、体にも悪影響はないことがわかった。出荷量についても県内より県外のほうが出荷が多いことがわかり出荷に至らなかったピーマンについては人にあげるかそれでもだめなものは捨て数的には殆どないことがわかった。

方法

実際にピーマンを生産販売している農家さんに電話でピーマンについての質問をする。ピーマンの販売を行っているスーパーに電話をかけ売れ残りに対する質問をする。



結果 2

電話でスーパーにピーマンの売れ残り、また、その売れ残りをどうするのか伺った。まずバックヤードの売れ残りは0。しかし、お客さんに出してる売れ残りはもちろんあるが、そういった売れ残りは食品ロスにならないように翌日出している。廃棄量は0 一日の売れ残りは2万円



結論

宮崎県で生産されているピーマンのほとんどが県外へ出荷されており、また近くのスーパーでの廃棄量はゼロであることがわかった。その一方で、虫の心配や農作物に使っている農薬などは指定されているものを使っているため安全性が高いということがわかった。それによってへたや種をおいしく食べることでピーマンの廃棄量を減らすことができ、地産地消にもつながる。



参考文献 <https://todo-ran.com/t/kiji/11725#:~:text=https://47todofuken-ranking.com/pi-man-syohi/>